



EBISU_{san}

大田区立松仙小学校
令和3年7月20日(火)
裏研究推進だより 第8号
担当 1学期

専科話題提供授業 協議会記録

成果

◎児童の様子

- ・写真から自分のもつイメージをどう広げていくか考えている様子が見られた。
- ・何も書いていない児童が一人もおらず、意欲的に取り組んでいた。
- ・振り返りのワークシートの記入では、自分のもつイメージを書き込んでいる姿が多く見られた。
- ・自分らしい作品に近づけるために、表し方にこだわって取り組んでいる子が多かった。

◎教師の支援

- ・導入での、工夫の視点の確認がよかった。(掲示物があり、わかりやすい)
- ・ワークシートによって次へのつながりとなり、写真からイメージを膨らませるのにワークシートは有効的。
- ・刷毛、ブラシなど表現の選択肢があってよかった。
- ・子供に選択肢を与える声掛けがあってよかった。

課題&疑問

◎本時について

- ・前時の振り返りが少しだけでもあるとよい。
- ・同じイメージでも多様な考え方があるため、イメージの捉え方が難しい。ワークシートマップで分析しなくてもよかった？
→直感も大切。自分が今日感じたことを広げていくのも1つの手立て。

◎手立てについて

- ・写真の大きさを統一せず、いろいろな大きさで用意したり、もっと写真の解釈をさせて始めてもよかった。
- 写真をあえて最後に貼ったり、最終的に塗りつぶされてなくなったり、写真は1つのきっかけとして使用する。
- ・「思いが浮かばない子は他の子の作品を見てもいいよ」という声掛けではなく、写真と対峙して自分で考えさせたい。

◎振り返りについて

- ・友達のイメージの発言の場を設けたり、撮っていた写真をスライドに流すなど、交流があるとよかった。→発想の面と技能の面で、次時で紹介しようと思っている。(本時では時間が足りず難しい)

☆「勉強になった！」ポイント☆

<子供に選択肢を与える声掛けの仕方！>

私が図工の授業で悩むのが、子供に対する声掛けです。指導の中の言葉1つで子供がイメージしていることや表したいことを左右するものになると考えると、声掛けて難しいな…というのがいつも授業をしていて思っていました。菊池先生の授業風景や実際にしている声掛けを聞き、子供に選択肢を与える声掛けをすることで、教師としての手助けができることを学びました。また、手がすすむ子とそうでない子もいる中で、声掛けの仕方を分けられているのも勉強になりました。子供をよく見ていないとできない声の掛け方だなどと思い、私も普段の授業から早速生かしていきたいと思えます！

指導・講評 品川区立立会小学校 田中 明美 先生

☆図工で下書きは一切しない!

- 鉛筆と筆は同じものだと考える。鉛筆で一度書いてしまうと、そこからはみ出さないように塗ってしまう。書いている途中でイメージが変わることもあるので、下書きはなるべくさせないようにしたい。
- また、「失敗したら怖い。でもやってみるぞ!」というドキドキは線に表れ、絵によい影響を与えるため、最初の緊張感を大事にしたい。

☆「イメージ」と「思い」の違い!

- 「イメージ」は想像していること。誰でも共通していることが多い。
- 「思い」は経験を通して、自分が獲得していくもの。それぞれの思いからのストーリーがある。

☆日常の図工の授業(他の授業でも意識)!

- 本時の内容を教師がしっかりもち、子供に伝えたい根っこの部分は外さないようにする。
- 先生が決めることと、子供が決めることは分けて、選択肢を与えてあげる。
- 完成図をはじめから提示するのではなく、子供一人一人がしっかりイメージできる時間を確保し、それぞれ色のある作品を仕上げるようにさせる。

キラリと光る付箋

成果

- ・写真からそれぞれの「まだ見ぬ世界」をイメージしておもしろかった。
- ・自分のイメージを広げられない子への声かけや、本の準備などがよかった。
- ・「図工のメガネ」教科の特性・見方を分かりやすく示した言葉だった。
- ・3つの視点とそれに沿った声かけがよかった。

課題

- ・写真の続きではなく、どこまでイメージをとばせるかは難しい。
- ・体育もそうだが、全体でのまとめ→個人の振り返りがよいのではないか。
- ・振り返りの視点がホワイトボードにあったので、子供たちはそれを見て、各自振り返りができていた。近くの人と絵を見せ合いながら少しでも共有できるとよかったかも?
- ・自分のイメージを表すために、絵の具の使い方をどれだけ指導しているか。

導入では、題材計画や表現の工夫について丁寧に確認することで、児童が主体的に学ぶ環境づくりにつながっていた。授業の途中では、「こんな表現もあるよ。」などと、子供の作品の選択の幅が広がるような声掛けをしている姿は成果と言える。一方で、ワークシートのイメージマップの必要性や、振り返りの仕方については課題の声が多くあった。個人的には、自分の世界に入るとは、どういうことなのか?写真の続きを模写して上手に描けばよいのか?自分がイメージしたことを表現する技術があるのか?等、評価等も含めて考えると本当に難しい題材であった。

講師の先生の話にあった、「イメージは想像(みんなが想像しやすいもの)で、想いは自分より(個人の気持ちが入るもの)だ。」という違いについてはなるほど!と、理解することができた。子供たちの生まれもった感性を磨いてあげられるような図工の授業をするために、何をやる必要があるかを考えて授業をしていきたい。